

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ワントラム錠 100 mg	劇	市販直後調査 平成 27 年 6 月～平成 27 年 12 月
(英名)	Onetram Tablets 100mg		
(規格・含有量)	1 錠中、トラマドール塩酸塩 100mg を含有		
(一般名)	トラマドール塩酸塩		
(メーカー名)	日本新薬株式会社		
【薬価収載日】	2015 年 5 月		
【薬価】	1 錠:119.1 円		
【薬効コード】	871149		
【薬効分類名】	持続性がん疼痛・慢性疼痛治療剤		
効能・効果	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記における鎮痛 疼痛を伴う各種癌 慢性疼痛		
用法・用量	通常、成人にはトラマドール塩酸塩として100～300mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。ただし、1日400mgを超えないこととする。		
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者〔中枢神経抑制及び呼吸抑制を悪化させるおそれがある。〕 ③モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者、又は投与中止後 14 日以内の患者 ④治療により十分な管理がされていないてんかん患者〔症状が悪化するおそれがある。〕 ⑤高度な腎障害又は高度な肝障害のある患者〔高い血中濃度が持続し、作用及び副作用が増強するおそれがある。〕		
相互作用	本剤作用増強 リネゾリド 本剤他剤作用増強 モノアミン酸化酵素阻害剤(セレギリン塩酸塩)、オピオイド鎮痛剤、中枢神経抑制剤(フェノチアジン系薬剤、催眠鎮静剤等)、三環系抗うつ剤、セロトニン作用薬(選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)等)、アルコール、キニジン 他剤作用増強 ジゴキシン、クマリン系抗凝血剤(ワルファリン) 本剤作用減弱 カルバマゼピン、オンダンセトロン塩酸塩水和物、ブプレノルフィン、ペンタゾシン等		
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、呼吸抑制、痙攣、依存性、意識消失 その他 傾眠、浮動性めまい、悪心、嘔吐、便秘、食欲減退、口渇 等		

(薬品名)	ムコソルバン L 錠 45 mg
(英名)	Mucosolvan L Tablet 45 mg
(規格・含有量)	1 錠中、アンブロキシール塩酸塩 45 mgを含有
(一般名)	アンブロキシール塩酸塩
(メーカー名)	帝人ファーマ株式会社
【薬価収載日】	2015 年 6 月
【薬価】	1 錠:67.7 円
【薬効コード】	872239
【薬効分類名】	徐放性気道潤滑去痰剤
効能・効果	下記疾患の去痰 急性気管支炎、気管支喘息、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺結核、塵肺症、手術後の喀痰喀出困難
用法・用量	通常、成人には1回1錠(アンブロキシール塩酸塩として45mg)を1日1回経口投与する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	記載なし
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群) その他 血管浮腫(顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等)、めまい、胃不快感 等

(薬品名)	ガドビスト静注 1.0mol/L シリンジ 5mL ガドビスト静注 1.0mol/L シリンジ 7.5mL ガドビスト静注 1.0mol/L シリンジ 10mL	市販直後調査 平成 27 年 6 月～平成 27 年 12 月
(英名)	Gadovist IV Injection 1.0mol/L Syringe	
(規格・含有量)	1mL 中、ガドブトロール 604.720mgを含有	
(一般名)	ガドブトロール	
(メーカー名)	バイエル薬品株式会社	
【薬価収載日】	2015 年 5 月	
【薬価】	5mL:5114 円、7.5mL:7457 円、10mL:9745 円	
【薬効コード】	877290	
【薬効分類名】	非イオン性 MRI 用造影剤	
効能・効果	磁気共鳴コンピューター断層撮影における下記造影 脳・脊髄造影 躯幹部・四肢造影	
用法・用量	通常、本剤0.1mL/kgを静脈内投与する。	
禁忌	本剤の成分又はガドリニウム造影剤に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	記載なし	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、痙攣発作、腎性全身性線維症(Nephrogenic Systemic Fibrosis、NSF) その他 蕁麻疹、発疹、潮紅、頭痛、嘔気、嘔吐、口内乾燥、血圧上昇、頻脈、熱感、注射部位反応 等	

削除医薬品通知

●9月1日より

ピーガード錠 20 mg	9/1 削除
ムコソルバン錠 15 mg	9/1 削除
フェリセルツ散 20% 3gシート	9/1 削除
オプチレイ 350 注 50mL	9/1 削除
マグネピスト注シリンジ 15mL	9/1 削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
●9月1日より レトロゾール錠 2.5 mg 「NK」 セフェピム塩酸塩静注用 1g 「サンド」	フェマーラ錠 2.5 mg 注射用マキシピーム 1g

医薬品名称変更通知

新製品名	旧製品名
●9月1日より センノシド錠 12 mg 「ファイザー」 クリンダマイシンリン酸エステル注 600 mg/4mL 「F」 ベクロニウム静注用 4 mg 「F」	フォルセニッド錠 12 mg リントシン注射液 600 mg/4mL マスキュレート静注用 4 mg
●9月17日より シスプラチン点滴静注液 10 mg/20mL 「ファイザー」 シスプラチン点滴静注液 50 mg/100mL 「ファイザー」	プラトシン注 10 mg/20mL プラトシン注 50 mg/100mL

適応追加通知

<p>アーチスト錠 2.5 mg アーチスト錠 10 mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本態性高血圧症(軽症～中等症) 2. 腎実質性高血圧症 3. 狭心症 4. 次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、利尿薬、ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者 虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全 5. 頻脈性心房細動 <p>【用法・用量】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～4. 省略 5. カルベジローールとして、通常、成人1回5mgを1日1回経口投与から開始し、効果が不十分な場合には10mgを1日1回、20mgを1日1回へ段階的に増量する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、最大投与量は20mgを1日1回までとする。
<p>イクセロンパッチ 4.5 mg イクセロンパッチ 9 mg イクセロンパッチ 13.5mg イクセロンパッチ 18 mg</p>	<p>【効能・効果】 軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制</p> <p>【用法・用量】 通常、成人にはリバステグミンとして1日1回4.5mgから開始し、原則として4週毎に4.5mgずつ増量し、維持量として日1回18mgを貼付する。また、患者の状態に応じて、1日1回9mgを開始用量とし、原則として4週後に18mgに増量することもできる。 本剤は背部、上腕部、胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。</p>
<p>クラビット錠 500 mg クラビット細粒 10%</p>	<p>【効能・効果】 <適応菌種> 結核菌</p> <p><適応症> 肺結核及びその他の結核症</p> <p>【用法・用量】 通常、成人にはレボフロキサシンとして1回500mgを1日1回経口投与する。なお、疾患・症状に応じて適宜減量する。 肺結核及びその他の結核症については、原則として他の抗結核薬と併用すること。</p>
<p>ブイフェンド錠 50 mg</p>	<p>【効能・効果】 造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防</p> <p>【用法・用量】 ○成人(体重40kg以上) 通常、ポリコナゾールとして初日は1回300mgを1日2回、2日目以降は1回150mg又は1回200mgを1日2回食間に経口投与する。なお、患者の状態に応じて、又は効果不十分の場合には、増量できるが、初日投与量の上限は1回400mg1日2回、2日目以降投与量の上限は1回300mg1日2回までとする。 ○成人(体重40kg未満) 通常、ポリコナゾールとして初日は1回150mgを1日2回、2日目以降は1回100mgを1日2回食間に経口投与する。なお、患者の状態に応じて、又は効果不十分の場合には2日目以降の投与量を1回150mg1日2回まで増量できる。 ○小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満) ポリコナゾール注射剤による投与を行った後、通常、ポリコナゾールとして1回9mg/kgを1日2回食間に経口投与する。なお、患者の状態に応じて、又は効果不十分の場合には1mg/kgずつ増量し、忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ減量する(最大投与量として350mgを用いた場合は50mgずつ減量する)。 ただし、1回350mg1日2回を上限とする。</p>

	<p>○小児(12歳以上で体重50kg以上)</p> <p>ポリコナゾール注射剤による投与を行った後、通常、ポリコナゾールとして1回200mgを1日2回食間に経口投与する。なお、患者の状態に応じて、又は効果不十分の場合には1回300mg1日2回まで増量できる。</p>
<p>オキサリプラチン点滴静注液 50 mg「NK」</p> <p>オキサリプラチン点滴静注液 100 mg「NK」</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌</p> <p>結腸癌における術後補助化学療法</p> <p>治癒切除不能な膵癌</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の胃癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌及び結腸癌における術後補助化学療法にはA法又はB法を、治癒切除不能な膵癌にはA法を、治癒切除不能な進行・再発の胃癌にはB法を使用する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>A法: 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして85mg/m²(体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも13日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。</p> <p>B法: 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして130mg/m²(体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも20日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。</p>
<p>トレシーバ注フレックスタッチ</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>インスリン療法が適応となる糖尿病</p> <p>【用法・用量】</p> <p>通常、成人では、初期は1日1回4～20単位を皮下注射する。注射時刻は毎日一定とする。投与量は患者の状態に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位である。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。</p> <p>通常、小児では、1日1回皮下注射する。注射時刻は毎日一定とする。投与量は患者の状態に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日0.5～1.5単位/kgである。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。</p>
<p>ブイフェンド 200 mg 静注用</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防</p> <p>【用法・用量】</p> <p>成人省略</p> <p>小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満):</p> <p>通常、ポリコナゾールとして初日は1回9mg/kgを1日2回、2日目以降は1回8mg/kgを1日2回点滴静注する。</p> <p>なお、患者の状態に応じて、又は効果不十分の場合には1mg/kgずつ増量し、忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ減量する。</p> <p>小児(12歳以上で体重50kg以上): 省略</p>
<p>レミケード点滴静注用 100</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>既存治療で効果不十分な腸管型パーチエット病、神経型パーチエット病、血管型パーチエット病</p> <p>【用法・用量】</p> <p>通常、体重1kg当たり5mgを1回の投与量とし点滴静注する。初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間の間隔で投与を行うこと。なお、6週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、体重1kg当たり10mgを1回の投与量とすることができる。</p> <p>なお、本剤投与時には、1.2ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。</p>